

# ワークショップのご案内

一般社団法人日本箱庭療法学会第 37 回大会を米子コンベンションセンターBiG SHiP/米子市文化ホール（鳥取県米子市）および Zoom（オンライン）にて開催いたします。今大会は、12 名の先生方にワークショップ講師をお引き受けいただくことができました。

ワークショップの形式は、講師に一任しています。コースによって、テーマに即した参加者からの事例提供を募集しています。詳細は各コース（A～L）の案内をご覧ください。

みなさまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

## 1. ワorkshop概要

**日 時：** 2024 年 10 月 12 日（土）9:30～12:00（受付開始 9:00）  
**会 場：** オンサイト：米子コンベンションセンター BiG SHiP/米子市文化ホール（鳥取県米子市）  
オンライン：Zoom  
**講 師：** （50 音順・敬称略）

A	伊藤 良子	（京都大学名誉教授）
B	梅村 高太郎	（京都大学大学院教育学研究科）
C	大山 泰宏	（放送大学）
D	角野 善宏	（新川医院）
E	河合 俊雄	（京都こころ研究所・京都大学名誉教授）
F	川寄 克哲	（学習院大学）
G	桑原 知子	（放送大学・京都大学名誉教授）
H	高石 恭子	（甲南大学）
I	田熊 友紀子	（代官山心理・分析オフィス）
J	田中 康裕	（京都大学大学院教育学研究科）
K	豊田 園子	（豊田分析プラクシス）
L	名取 琢自	（京都文教大学）

**受 講 費：**

	A 〔 7 月 31 日までに お申し込みの方 〕	B 〔 8 月 1 日以降 お申し込みの方 〕
会 員	6,000 円	7,000 円
非会員	8,000 円	9,000 円

**受 講 資 格：** 一般社団法人日本箱庭療法学会正会員。もしくは臨床心理士の有資格者、臨床心理学を学んでいる大学院生、臨床心理学およびその関連領域で実践的な仕事に従事されている方で、心理臨床事例に関する守秘義務を遵守できる方。

## 2. ワークショップ・コースのご案内

### A 分かりにくい箱庭表現

---

**講 師:** 伊藤 良子（京都大学名誉教授）

**内 容:** 本ワークショップでは、これまで、多くの分かりにくい箱庭表現を取り上げて参りました。それらは、神経症圏の方々が置かれる箱庭とは大きく異なり、無機的・表層的な表現で、誠に分かりにくいものでした。しかも、それらは、毎回、同じような表現であるにも拘らず、クライアントは、面接を休むことなく、続けて来談し、箱庭を置かれました。このような表現においてこそ、こうしたクライアントの在り方や生きづらさに接近することが可能にされるのだと考えております。今回は、以上のような箱庭表現をご提示いただく方を募集したいと思います。

**事例提供者:** 受講者の中から事例提供者を募集します。

### B 思春期の心理療法におけるセラピストの役割

---

**講 師:** 梅村 高太郎（京都大学大学院教育学研究科）

**内 容:** 心理療法においてセラピストの役割は、“真っ白なスクリーン”、“鏡”、“器”、あるいは“舞台”といったように、さまざまに喩えられる。それぞれに強調点は異なるが、これらはいずれも、セラピストがその主体性や人格性を否定し、受身的存在に徹することで、治療的な場を創出するものであることを示していると言えるだろう。しかし、思春期の心理療法においては、特に初期の局面では、こうしたメタファーに表されるような基本的姿勢のみでは立ち行かないことがある。思春期のクライアントと会う際に、私たちセラピストは、(ひょっとすると殊更意識することなく、) その基本的な立ち位置を逸脱し、調整を行っているように思われる。このワークショップでは、こうした思春期の心理療法におけるセラピストの役割について、なぜ基本的な姿勢が通用し難いのかを検討した上で、そこで必要とされている機能を、“触媒”や“相手役 (counterpart)” という表現で捉え、提示する。さらに、思春期の事例を参加者からご提供いただき、その検討を通じて、本テーマについて考えを深めたい。

**事例提供者:** 受講者の中から事例提供者を募集します。

思春期年代の事例、あるいは思春期の心性を残す青年期事例。箱庭、描画、夢、遊びなど何らかのイメージ素材が含まれていることが望ましい。

### C 象徴以前のこころの機能を理解する

---

**講 師:** 大山 泰宏（放送大学）

**内 容:** プレイセラピーや箱庭表現でのプロセスでみられる展開や表現には、こころの象徴機能を通して表れてくるものばかりでなく、クライアント（子ども）のこころの水準や発達の段階によっては、象徴化以前の基礎的かつ原初的なこころの機能を通して、セラピストとの関係性の中に布置されるものも多い。そのようなときセラピストは、表現や行動の意味をどのように読み取ったらいいのか、どのように「解釈」したらいいのか、どのように関わったらいいのか、直感することが難しくなる。発達障がいや被虐待経験を伴うクライアント（子ども）、重篤な精神障がいの場合などに、頻繁にみられることである。このワークショップでは、どのような展開であったのかセラピストがまだ腑に落ちていない事例、どのような表現やあそびがなされたのか分かりにくい事例、関わり方がわからず展開がなかなか生じない事例などについて、象徴化以前の段階でのこころのあり方の観点から読みとき、クライアント（子ども）に対する私たちの理解と関わりの可能性を広げていくことを意図したい。

**事例提供者:** 受講者の中から事例提供者を募集します。

## D 精神科診療から見た発達障害

---

**講 師:** 角野 善宏 (新川医院)

**内 容:** 学校や職場での適応に困難や苦しみを抱えた人たちを発達障害という切り口で理解しようとする試みはかなり一般的に知られるようになった。その結果、その人たちを医療につなげようという周囲の人たちの動きも活発になり、診断、投薬という流れでの解決を期待されることも増えてきた。しかし実際の精神科診療で、精神科医が発達障害の方たちにどのように関わっているのかは案外知られていないように思う。  
今回のワークショップでは、精神科医である講師自身が、日常的にどのような診療をしているのか、そして発達障害をどう捉えているのかということについて自分のケースを通じて紹介したい。その後、参加者のみなさんから、さまざまな質問を受けながらそれぞれの現場で出会っている発達障害の人たちへの理解を深めていきたい。

**事例提供者:** 講師自身が事例を提供する。

## E 心理療法と聖地・巡礼

---

**講 師:** 河合 俊雄 (京都こころ研究所・京都大学名誉教授)

**内 容:** 心理療法は、こころの「内面」を扱うというパラダイムに基づいているので、クライアントの行動化については否定的に見られる。旅をしたりするのも逃避と考えられたり、その話題も単なる雑談とみなされることも多い。しかし宗教において「巡礼」が「祈り」、「瞑想」と並ぶ重要な形であるように、クライアントが旅をして聖地、あるいはその人にとって聖地を訪れることがセラピーにおいて大きな展開をもたらすことがある。心理療法における巡礼の意味を考え、事例に沿って検討したい。

**事例提供者:** 西牧 万佐子氏

## F 心理療法における二項対立とその基盤に関して——主に風景構成法を中心として——

---

**講 師:** 川崎 克哲 (学習院大学)

**内 容:** 心理療法において、二項対立的な現象はとてもしばしば現れてくる。たとえば、不登校の子どもをもつ親が「無理にでも登校を強く促した方がいいんでしょうか、それとも何も言わずに見守っておくのがいいんでしょうか」と治療者に問うてくることなどもその一例である。このような、AかBかという二項対立的な現象に関して、心理療法においてはA、あるいはBという方向に向けて事態が収束していき、問題が解消されることよりも、「A/B」という二項対立を形成しているその基盤自体が揺れて変化し、二項が対立するような形そのものが解消されて、まったく別の「C」というような方向で問題が解決されていくことも多い(河合隼雄がしばしば語っていた「二つよいこと、さてないものよ」という言葉の真の意味はここにあると思う)。また、そのような基盤自体が脆弱であるため、二項対立的な形が作れないことが問題になることもある(たとえば、発達障害)。本ワークショップでは、このような二項対立とそのような形を形成する基盤に関して、主に風景構成法を中心に検討していきたい。具体的には、描かれる川と連山に注目することになると思われる。

**事例提供者:** 奥原 理恵子氏

## G イメージを扱う心理療法の「開く力」と「閉じる力」——箱庭・夢・描画・ロールシャツハテストなど——

---

**講 師:** 桑原 知子 (放送大学・京都大学名誉教授)

**内 容:** イメージを扱う心理療法においては、何かが「表現」される。その際、クライアントがこころを「開いて」いるという感覚があり、そこで、クライアントとセラピストが出会う。イメージ

がこころを「開く」手助けをしているのである。一方で、心理療法においては、「閉じる」ことも重要な意味を持つ。たとえば、箱庭療法における、「見る」という営みは、こころのなかにイメージを「定位」させるだろうし、イメージとは異なる玩具やアイテムを用いなければいけないという「限界」は、イメージを「閉じる」作用を持っているのではないだろうか。心理臨床における「開く」「閉じる」というのはたらしきについて、イメージを中心に考えてみたい。

**事例提供者： 受講者の中から事例提供者を募集します。**

テーマに触発されたものであれば、どんなものでもかまいません。一回かぎりのものでもよいですし、どこでなされたものでもかまいません。

## H 現場に生きる表現技法の可能性を探る

---

**講 師： 高石 恭子（甲南大学）**

**内 容：**箱庭、描画、造形などイメージを用いた表現技法は今日でも様々な現場で用いられている。医療領域では、保険制度の中で検査や治療技法としての実施が多く、標準化されたもの、効果のエビデンスがあるもの、といった側面が重要視される。一方、教育、福祉、個人開業オフィスなどの現場では、そのような制約に囚われないもっと自由な展開が可能である。例えば描画技法について、中井久夫が遺してくれた知見のように、日常言語では表現しえない混沌の世界を生きる人が画用紙に引く一本の線を畏れの思いで受け止めるという場合もあれば、言語的思考に支配され枯渇する内的世界に生きる人と交互になぐりがきをしてあそび、情緒的な再生を目指すという場合もある。遠隔地にいても、オンラインで描画や箱庭を導入することは工夫次第でできる。表現技法は、本来、必要に即して自由に、創造的に生み出され、修正されていくものであろう。本コースでは、表現技法が現場でどのように実際に展開され、どう活かしようのか、その可能性を皆様と一緒に探ってみたい。

**事例提供者： 受講者の中から事例提供者を募集します。**

個人や集団への心理的支援の経過で表現技法を積極的に（あるいは必要に迫られて）導入し、クライアントの成長や回復に意義を感じた事例を募集する。学生相談または教育領域を優先とするが、それ以外でも構わない。

## I 個人を超越した「禍・呪・魔」の力とその変容

---

### — 児童養護施設における困難事例の箱庭とイメージから考える —

---

**講 師： 田熊 友紀子（代官山心理・分析オフィス）**

**内 容：**箱庭やイメージのなかで、攪乱・混乱、破壊、死などネガティブで恐ろしい事態が表現されながらも、それらを経て「死と再生」の変容や展開のプロセスが生じていくことがある。その際、イメージにおける見通しや守りの機能が、セラピストクライアント両者の「サバイバル」に寄与すると考えられる。しかししばしば臨床の場で出会う「困難事例」においては、箱庭やイメージの中だけに収まり切れずに、日常生活や環境自体もクライアントに布置された混乱や攪乱の力に巻き込まれ、途方に暮れるような心持になることがある。「個人を超えた」圧倒的な攪乱のなかで、いかにして個や関係性を守ることが可能か、クライアントの内的世界に「守る力」が生まれるか。そこでは、セラピストの「定点」と「視点」が重要となると思われる。本ワークショップでは、児童養護施設の思春期女子事例を取り上げる。講師の関心領域でもある、トリックスター元型のイメージを手がかりに検討することも試みたい。

**事例提供者： 宮澤 知謠氏**

## J 現代の意識の諸相とイメージを用いた心理療法

---

**講 師:** 田中 康裕 (京都大学大学院教育学研究科)

**内 容:** 心理療法というプロジェクトの基であった西欧近代の意識は、集合的にはもはや過去の遺物であり、われわれは今日、ポスト近代である現代の意識の心理療法について考えざるをえない。このような状況のなか、解離、発達障害、心身症等の今日的な問題へのアプローチを考えた時、夢、箱庭、描画等のイメージ表現を用いる心理療法のもつポテンシャルはかなり大きいように思う。このワークショップでは、そのポテンシャルとはどのようなものかについて、そして、そこにはどのような歴史的・文化的な背景が存在しているのかについて、学習院大学の北山純氏に事例提供をお願いし、具体的に検討したい。

**事例提供者:** 北山 純氏

## K イメージの受け取り方

---

**講 師:** 豊田 園子 (豊田分析プラクティス)

**内 容:** 箱庭療法や夢など、心理療法ではイメージを扱うことが多い。そこでは簡単にことばに落とし込むのではなく、いかにイメージを味わうかということが大きな意味をもつ。イメージで遊び、そこからいろいろな連想を広げることで新たなこころの空間が広げられるかもしれない。イメージを通すことで、ことば自体も違う色合いをもち、新たな意味をもつこともあるだろう。イメージというものの基本に帰ることで、心理療法でのイメージの受け取り方について改めて考えてみたい。箱庭や夢、描画など、イメージを扱った事例を募集します。長い事例だけに限らず、特に印象深いイメージを取り上げてみたいという方も歓迎します。

**事例提供者:** 受講者の中から事例提供者を募集します。

## L 箱庭／夢イメージ系列のコンテキストと元型的心理学

---

**講 師:** 名取 琢自 (京都文教大学)

**内 容:** ユングは夢の系列全体を通して「コンテキスト」を見出すことを推奨している。「コンテキストの確認によって見出された意味を夢テキストにあてはめ、それによってテキストがなめらかに読めるようになったか、ないしはそれによってテキストが充分納得のいく意味を獲得したか、これを試してみるということが、いついかなる場合でも原則である (...) こうして獲得される意味が、予め懐いていた何らかの主観的期待に一致するのではないかなどと考えることは絶対に許されない。」(ユング, 1944/1951/1976, 『心理学と錬金術』 I, p.71) 同様の「夢の意味を理解するためには、できるだけ夢のイメージのすぐ近くに留まっていなければならない」(ユング, 1937/2016, 『夢分析の臨床使用の可能性』, p.17) という態度は、ヒルマンらの元型的心理学のモットー「Stick to the Image (イメージに忠実に従う)」として引き継がれている。前回に引き続き、元型的心理学の視点から箱庭作品や夢などのイメージの系列を辿りつつ、コンテキストを抽出する作業を試み、事例の理解を深めていきたい。

[本ワークショップは国際箱庭療法学会 (ISST) 入会資格取得のための理論的学習の時間数にカウントすることができます。]

**事例提供者:** 受講者の中から事例提供者を募集します。

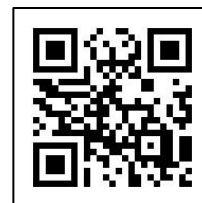
箱庭、夢、描画などイメージ表現の系列を含む事例を募集します。

### 3. ワークショップの受講申し込み

ワークショップの参加申込は、別紙「第1号通信」を参考に以下の要領でお申し込みください。

1. 大会参加申込フォームよりお申し込みいただけます。右記 QR コードよりフォームにアクセスいただき、ご希望のワークショップを選択し、お申し込みください。

先着順での受付となりますため、定員になったワークショップから締め切らせていただきます。また、会場の定員数により、ご希望のワークショップにご参加いただけない場合もございますので、あらかじめご了承ください。



2. 参加申込入力項目に続いて、事例発表内容に関して「**秘密保持に関する誓約書**」の提出をお願いしております。誓約書をご提出いただけない場合は、大会への参加をお断りすることになります。また、誓約内容に違反された場合、大会参加資格の停止等の措置をとらせていただきますこと、あらかじめご了承ください。
3. 自動返信メールにて参加費の合計金額をご確認いただき、**2週間以内**に下記口座へ諸費用をお振り込みください。**お振り込みの際には、必ず参加者ご本人の名義でお手続きいただき、お振り込みください。**申し込みと諸費用のお振り込みおよび秘密保持に関する誓約書の提出が当方で確認でき次第、参加手続きが完了となります。なお、振り込まれた諸費用は、事情の有無に関わらず返金いたしませんのでご了承ください。
4. オンサイト参加者には、9月初旬に名札を送付します。当日必ず持参し、直接会場へお越しください。受付は必要ありません。
5. 「当日参加」受付はございませんので、期間内にお申し込みの上、ご参加ください。

<ゆうちょ銀行から振り込まれる場合>

口座名：00920-0-310345

加入者名：一般社団法人日本箱庭療法学会年次大会

<他の金融機関から振り込まれる場合>

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：099 預金種目：当座 店名：〇九九店（ゼロキユウキユウ店）

口座番号：0310345

## 4. ワークショップの事例発表申し込み

1. 希望するワークショップ・コースが事例を募集している場合にのみお申し込みいただけます。なお、事例発表は原則として会員に限ります。
2. 申込フォームよりお申し込みいただけます。「ワークショップでの事例発表について」のチェックボックスで「ワークショップでの事例発表を希望する」を選択いただき、発表予定題目、共同発表者を入力し、**2024年4月18日(木)**までにお申し込みください。
3. 事例発表のお申し込みが多数あった場合は、ご希望に沿えないことがありますので、ご了承ください。

## 5. 研修ポイントについて

ワークショップ、シンポジウムの両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、ポイントが付与されます。詳細は、第1号通信6頁の「4. 研修ポイントについて」をご参照ください。

ワークショップL（講師：名取琢自先生）に参加された方はISST（国際箱庭療法学会）正会員になるために必要な「理論的トレーニング100時間」のうちの参加時間数として認定されます。参加証明書をご希望の方は、日本国際箱庭療法士協会事務局（JISST）メールアドレス（jisst\_office@sandplay.jp）までご連絡ください。ISST（国際箱庭療法学会）は世界の箱庭療法家が集い、学び合う場になっています。日本の箱庭療法への期待と関心も高まっています。皆様のご参加をお待ちしています。

※ISST参加証明書希望者については、JISSTに参加情報を提供いたします。

### 一般社団法人日本箱庭療法学会 第37回大会に関するお問い合わせ・連絡先

■一般社団法人日本箱庭療法学会 第37回大会準備委員会

E-mail: hako37th@gmail.com

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

島根大学 こころとそだちの相談センター内

\*お問い合わせやご連絡はEメールでお願いいたします。